

# カウンスル機能検討WG資料

---

社会的インパクト評価について

日本公共政策研究機構

梅原あすな

2023/1/30

# 目次

- アーツカウンシル機能における社会的価値の可視化の必要性
- アーツカウンシル機能と社会的価値評価
- 社会的インパクト評価とは
  - ロジックモデル、評価指標の例
- 英国における文化芸術分野の社会的インパクト評価
- （参考）国内助成における社会的インパクト評価導入事例

# アーツカウンシル機能における社会的価値の可視化の必要性

## 前提

文化芸術推進基本計画（第1期、第2期（中間報告））

- 我が国の文化芸術は「本質的価値」と併せて「社会的・経済的価値」を有している。
- 社会的価値の醸成から好循環へ。
- アーツカウンシル機能の強化による文化芸術団体等の自律的・持続的な発展に資する支援の強化。

→アーツカウンシル機能においても社会的価値の可視化を行い、その支援を行う必要性。

## なぜ必要性か

- 国の支援に対する国民への説明責任（アカウンタビリティ）を負うため。
- 政策戦略に基づいた効果的・効率的な政策執行のため。
  - ミッション、ビジョンの明確化
  - 助成等における資源配分の最適化
  - 根拠に基づく事業内容の正当性
  - 成果（アウトカム）を重視し、改善をはかる
  - 想定していなかった効果や影響の認識

→資源（公的・私的資源）流入への呼び水となり、市場の拡大を図り、好循環を促すことに繋がる

# アーツカウンシル機能と社会的価値評価

## アーツカウンシル機能

---

- 助成分配
  - 分配先事業、団体の社会的インパクトの可視化
  - 助成分配事業全体の社会的インパクトの可視化
  - 事業実施前から実施後に渡る社会的インパクトマネジメント
- 調査研究
  - 実態調査や先行事例調査
  - 論理的根拠への実証的研究

→報告、開示（説明責任）
- 自主事業（パイロット事業等）
  - 社会的インパクトの創出
- 他

# 社会的インパクト評価とは

～平成28年内閣府 社会的インパクト評価検討ワーキング・グループ

## 定義

### <社会的インパクト>

短期、長期の変化を含め、当該事業や活動の結果として生じた社会的、環境的な「アウトカム(効果)」

### <社会的インパクト評価>

社会的インパクトを定量的・定性的に把握し、当該事業や活動について価値判断を加えること

## 評価の目的、活用、特徴

### <目的>

- ①説明責任を果たす
- ②学び・改善

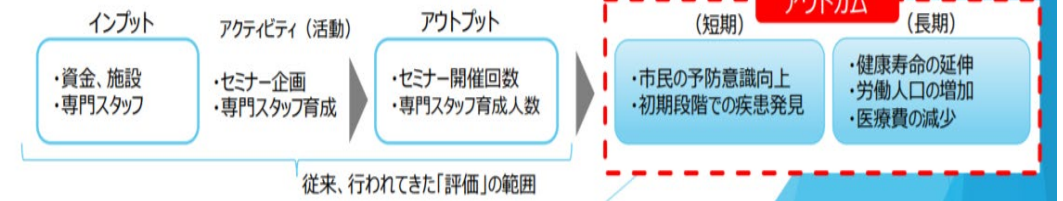
### <活用>

- ①資金獲得・成長
- ②経営管理・意思決定

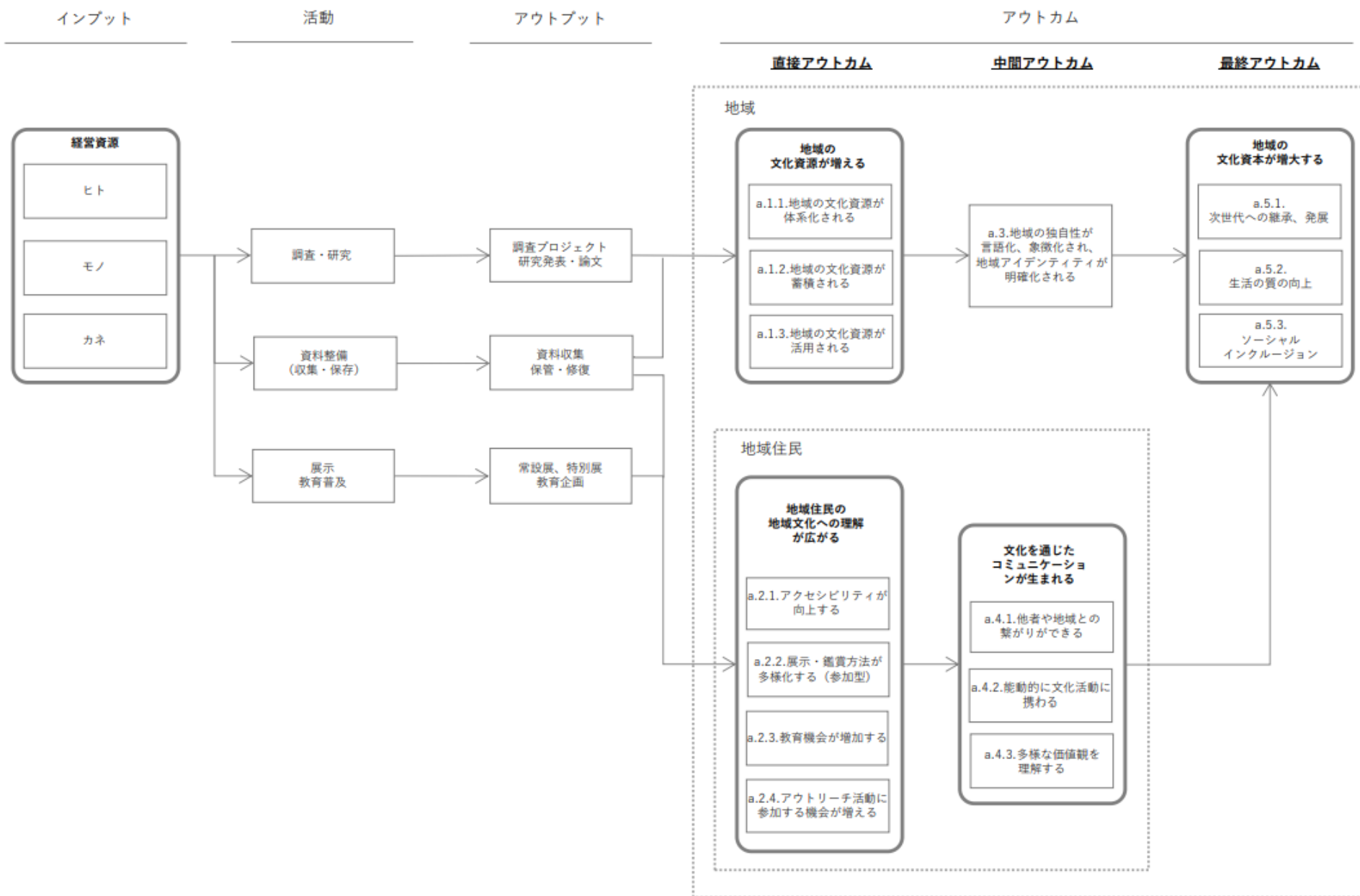
### <特徴>

- ・アウトプットに留まらず、その先のアウトカムを評価する
- ・アウトカムに至る論理的根拠を明らかにする  
(ロジックモデルや、セオリーオブチェンジなどを使用)

### ◆ ロジックモデルのイメージ (成人病予防事業のケース)



図表2：文化芸術分野におけるロジック・モデル例 ハイブリッド型（博物館等）



図表6：アウトカム指標と測定方法の一覧 ハイブリッド型

ステイクホルダー	アウトカムのカテゴリ	詳細アウトカム	指標	測定方法
地域	1. 地域の文化資源が増える	a. 1. 1. 地域の文化資源が体系化される	地域の文化資源に関する調査研究成果	p. 20
		a. 1. 2. 地域の文化資源が蓄積される	資料保存・修復及びアーカイブ化の状況	p. 21
		a. 1. 3. 地域の文化資源が活用される	地域での博物館保有資源の活用状況	p. 22
地域住民	2. 地域住民の地域文化への理解が広がる	a. 2. 1. アクセシビリティが向上する	来館者数（社会的弱者を含むすべての地域住民）の増加、満足度	p. 23
		a. 2. 2. 展示・鑑賞方法が多様化する（参加型）	参加型の展示や鑑賞機会の提供増加数、参加者数、満足度	p. 24
		a. 2. 3. 教育機会が増加する	教育プログラム（児童、学生、家族、生涯学習等）の提供数、参加者数、満足度	p. 25
		a. 2. 4. アウトリーチ活動に参加する機会が増える	学校教育・社会教育連携、他団体との協働、講演、サテライト展示等の企画数、参加者数、満足度	p. 26
地域	3. 地域アイデンティティの確立	a. 3. 1. 地域の独自性が言語化、象徴化され、地域アイデンティティが明確化される	地域アイデンティティ意識の明確度、地域愛着度	p. 27
地域住民	4. 文化を通じたコミュニケーションが生まれる	a. 4. 1. 他者や地域との繋がりができる	住民相互や地域とのコミュニケーションの創出状況	p. 30
		a. 4. 2. 能動的に文化に携わる	コミュニティ意識尺度の連帯・積極性因子、及び他者依頼因子（逆転項目）の尺度得点	p. 31
		a. 4. 3. 多様な価値観を理解する	自文化及び他文化への理解度、文化的差異の経験の認知程度	p. 32
地域	5. 地域の文化資本が増大する	a. 5. 1. 次世代への継承、発展	当該事業の文化継承・発展への貢献度	p. 34
		a. 5. 2. 生活の質の向上	該当事業の生活の質向上への貢献度	p. 36
		a. 5. 3. ソーシャルインクルージョン	排除対象意識の尺度得点	p. 37

# 英国における文化芸術分野の社会的インパクト評価

## 背景

---

政府全体として社会的価値を重要視

- 1999年ブレア政権政府白書
  - エビデンスに基づく政策形成（EBPM）の必要性が打ち出される。
- 2003年The Green Book（財務省発行の政策評価ガイドライン）
  - 社会的費用や便益を考慮すること、具体的算定方法、アウトカム志向で政策を立案すること、政策目標を明確にすることなどが記載される
- 2012年社会的価値法の施行（イングランド、ウェールズ）
  - 政府・地方公共団体・国営医療サービスなどの公共調達の際、社会的インパクトを考慮することを義務付ける。

## 文化芸術分野

---

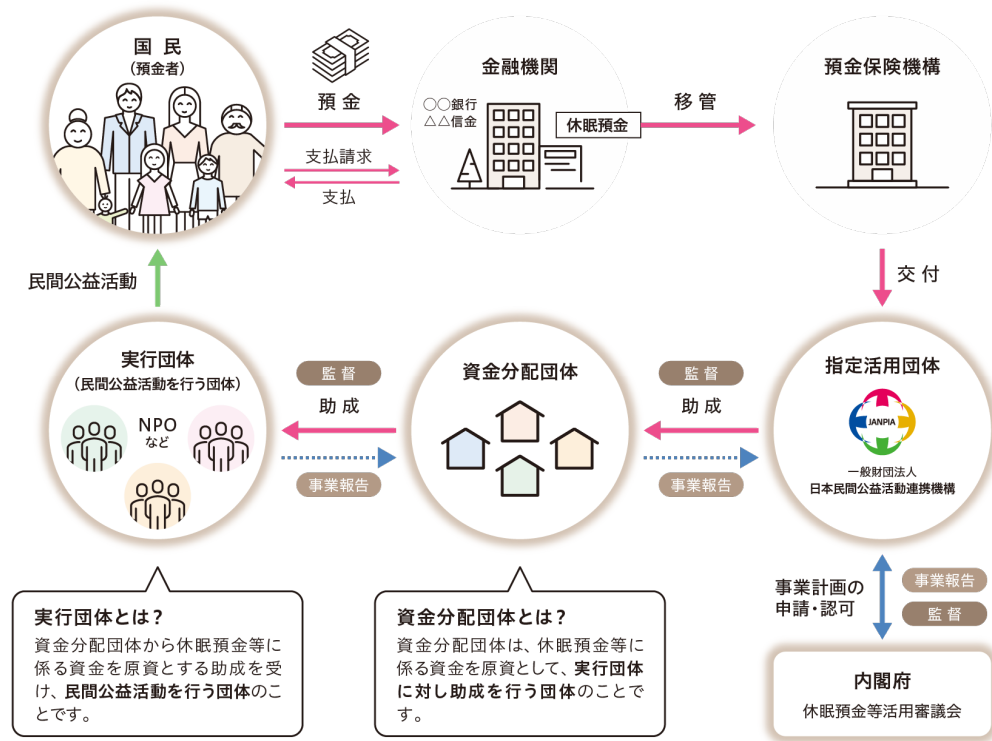
- アーツカウンシルイングランド
  - ツールキットを使用した現場の団体のインパクト評価が導入されている。
- The Green Bookのみでは、文化芸術の社会的価値の評価は難しく、環境や福祉医療分野などに続き、文化遺産の分野別の独自ガイダンスの策定調査プロジェクトを2021年に立ち上げ、分野独自の価値判断の調査に加え、より迅速な評価方法（便益移転）のガイダンス、事例集、及びそれぞれの事例の質の評価を公表。



# (参考) 国内助成における社会的インパクト評価導入事例

## 休眠預金等活用制度概要

休眠預金等活用法に基づき、2019年度より開始された10年以上取引のない預金等（休眠預金等）を社会課題の解決や民間公益活動の促進のために活用する制度。



一般財団法人日本民間公益活動連携機構ウェブサイトより

## 評価の実践

社会の諸課題の解決を図るため、休眠預金等に係る資金を活用して実施される民間公益活動全般に、プロセスの透明性や適正性の確保をはじめ、事前に達成すべき成果を明示した上で、事前、中間、事後、追跡での「社会的インパクト評価」を実施し、成果の可視化に取り組む。

## 導入までの環境づくり

- 行政、民間、学術等のマルチセクター連携の社会的インパクト評価イニシアチブ発足（現、社会的インパクトマネジメントイニシアチブ）  
ロードマップ作成、文化醸成、インフラ整備、評価事例の蓄積等
- 政府の調査事業
  - 社会的企業の経営基盤強化
  - 社会的インパクト評価の国内、海外調査、ベストプラクティスの創出。
  - 普及促進のため全国約100団体でのロジックモデル作成、中間支援団体における評価支援の基盤強化、ネットワーク強化実施。
  - 評価のシステム（IoT）に関する実態調査

→文化の醸成や、相談できる場、人的ネットワークなどの環境づくり